

キューブ型緑化ユニット

場所を取らず設置するだけで簡単緑化
都会で里山の息吹を感じられる緑化ユニット

◆アネックス

1つで5倍の緑化面積
手入れ不要の緑化ユニット

スペースもなく、さらにはコンクリートで覆われているという環境でも緑化を可能にするのがアネックスのキューブ型緑化ユニット「5×緑」(5倍緑)だ。フトンカゴと呼ばれる直方体の金網カゴに透水性のファイバーマットを敷き、軽量で保水性の高い人工土壌を盛り込んで4側面と上面に植栽。通常の5倍の緑化面積が得られるのが特徴で、名前の由来でもある。わずらわしい手入れの心配もほとんどなく、置くだけで簡単に緑化を楽しめる。

アネックスの5×緑プロジェクトは、



里山の植物を使用した「5×緑」のグリーンキューブ(里山ユニット)。予算や目的によって大きさを選べる

参加メンバーが「個人レベルでも可能な緑化を推進して社会的に役に立つ」という趣旨に賛同、2003年に誕生した。とりわけ同社の宮田生美氏は、自宅を新築する際に自ら5×緑を導入し、プロジェクトの社会的な役割について、いっそう実感したという。

宮田氏は、5×緑を使って、住宅敷地延長部分にアプローチガーデンを設置。これには、5×緑システムの開発者で、アクロス福岡など、都市のエコロジーの復活を目指した環境建築の第一人者、プランタゴの田瀬理夫氏による全面的な協力を得た。

宮田氏は「大型プロジェクトを手がけることがほとんどの田瀬氏から協力を得られただけでもありがたいが、コンクリートの通路に四季を楽しめるすばらしい緑が生まれたのには感激した。デザインの完成度も予想以上に高く感銘を受けた。個人レベルでも手軽に緑化を行うことができることを、多くの人に知っていただきたい」と語る。

5×緑を代表するのが「里山ユニット」(グリーンキューブ)と呼ばれる商品。これを設置するだけで、公共の大規模な建物から個人の邸宅まで、場所や条件に適した緑を増やすことができる。予算に合わせてユニットの大きさや使用する数なども調整できるほか、デザイン性も追求でき、自由度も高い。また「都市と里山の環」をメインテ



5×緑事業部

宮田 生美 氏

ーマとする5×緑では、地域の植生を尊重し、それぞれの地域に自生する在来植物を各地域の里山で育てて使用している。そのため、植物の環境への順応性が高く、こまめな手入れや灌水がほとんど不要。さらに、ユニットに使われる植物材料の費用は里山にも還元されることになるので、里山の植生保全にも貢献している。

5×緑は、狭い場所でも立体的な緑を視覚的に楽しめるので、スペースの少ない都会でも、暮らしの中で手軽に緑を増やしていく手法として、適していると言えるだろう。

キューブ型を活かした
ドット式屋上緑化

5×緑は、これまでに民家の屋上・壁面緑化のほか、つくばエクスプレスの



キューブ型ユニット(トラフィックキューブ)を使ったガードレール(つくばエクスプレス柏の葉駅キャンパス前)



2004年に竣工した新東京郵便局の屋上にキューブ型ユニットを点在させて緑化。ドット式と呼ばれるこの手法は、現在、日本郵政公社と共同で特許出願中

柏の葉キャンパス駅前のガードレールの緑化、西国分寺駅東地区の駐車場の壁面緑化、新東京郵便局の屋上緑化などに導入されている。特に新東京郵便局の屋上緑化では、屋上全面を緑で覆う一般的な被覆式とは異なり、グリーンキューブを点在させて配置するドット式と呼ばれる手法が用いられた。まさに5×緑の特性を活かした手法だ。新東京郵便局は、このドット式による屋上緑化で、予算的な問題や江東区の緑化条例もクリアした。

「建物は緑化を考慮せずに造られたものだったので不安だった。ただ、どうしても屋上を緑化したいという郵政公社の担当者の熱意により実現した。屋上緑化はできる限り雨水で維持することを考えるが、この局舎の場合、真夏に表面温度がかなり上昇することが予想されるため、工業用水を使った自動灌水装置を導入した。緑にとって条件が悪い場所でも、5×緑の特性をもって緑化ができたことは、我々の自信にもつながった」(宮田氏、以下同)

現在は、アネックスと日本郵政公社が共同で、ドット式屋上緑化の特許を申請中だという。

東京里山計画で 生活に密接した緑化を推進

さて、5×緑の導入先からの実際の反応はどうだろうか。

「緑が豊かに茂っていれば、建物の表面温度は30℃程度にとどまるので、省エネ効果も感じられると聞く。また、里山の植物を使っているので、季節の花が咲き、自宅の敷地内で四季を楽しめるとの声もあり、嬉しく思う」

一方、公共の建築物に使用されている5×緑は、機能性とデザイン性の両方に富んでいるため、デザイナーや建築家などの関心を引きつけることが多いようだ。最近では、専門家間でクチコミで評判が伝わっているという。

「これまでは広告を打つ余裕がなく、公共の場所で使用されている5×緑を見て、専門家に興味を持ってもらうことが主だった。今年からはプロジェクト本来の趣旨に戻り、個人の生活に密接した緑化を推進したい」

この緑化推進策として、同社では「東京里山計画」というプロジェクトを計画 중이다。具体的なプランは未定だが、クリエイターの協力を仰ぎ、都内の雑

然とした街の中に5×緑を置いたメッセージ性のあるイメージを作り、人々の緑化への関心を高めていきたいという。

宮田氏は「地球温暖化防止やヒートアイランド対策という意味でも緑は大切だが、緑と共存できる空間を見直す必要があると考えている。東京里山計画では、簡単に身近でできる緑化を紹介したい。様々な人が緑を通して穏やかにつながっていけるような環境づくりのきっかけとなればよいと思う」と意気込みを述べる。

近年、地球温暖化やヒートアイランドへの対策として緑化がますます推進されているが、都市部で緑化スペースを確保することは至難の業。また、個人レベルの屋上緑化や壁面緑化は、コスト面などの問題から普及するにまで至っていない。そのような諸問題を考えるとき、改善策の1つとして5×緑に大きく期待できそうだ。